（別紙7）

【機密性２情報】

「場の線量」から「個人の線量」を重視する防護措置の検討について

平成25年5月9日

１．検討の方向性の確認

個人の実際の被ばく線量は、一般に、空間線量から推計した線量よりも低く、また、生活形態により大きく異なる。こうしたことから、早ければ来年３月にも行われる避難指示の解除、住民の帰還に向け、「場の線量」から「個人の線量」に着目して、以下の作業等を行うことが必要。

(1)　生活形態の属性に着目した被ばく線量の推計を行い、帰還後の実際の被ばく線量の目安を示すこと【作業１】

① 住民が感覚的に「場の線量＞個人の線量」となることを理解できるような情報の提供

② 「場の線量＞個人の線量」となるメカニズムに関する説明の提供

(2)　防護措置の最適化のため、個人線量を実際に測定し、データを管理できる環境を整備すること【作業２】

① 個人線量の測定（※個人の行動把握も？）

② 測定データの収集、管理

２．速やかに確定すべき論点

(1) 作業内容の早期の企画

① 作業１については、調査委託を行うことになると考えられるが、関連分野に知見があると考えられる以下の機関等の協力を得つつ、調査設計を進めることが必要。

・JAEA（※個人線量と周辺線量の比較に関する調査等を実施）

・放医研（※初期被ばく推計等を実施）

・早野龍五　東大教授（※行動と被ばく線量の関係の調査等を実施）